

B 123

1 泊 2 日入院ドック中に受けるストレスドックの有効性

○島田富子、臼井かほる、堀口 優 (金沢社会保険病院健康管理センター)

【はじめに】

ストレスによる身体的影響に付いての研究はされている。当院1泊2日入院ドック(以下入院ドックとする)では、労働者のメンタルヘルスに対応するため平成11年よりオプションとしてストレスドック(A、Bの2コース)を追加することが出来る。今回は、ストレスドックを選択した群(以下ストレスドック群とする)と、選択しなかった群(以下対照群とする)を比較検討し若干の知見を得たので報告する。

【対象と方法】

対象は平成11年8月から平成13年11月までに、当院の入院ドックとストレスドックを受診した男性94人、女性32人合計126人(平均年齢47.7歳、標準偏差8.3)と同時期にストレスドックを選択しなかった入院ドック受診者、男性94人、女性32人合計126人(年齢48.4歳、標準偏差7.5)です。両群の比較はSPSSを使用して、GOT, GPT, γ -GTP, 負荷前血糖, 収縮期血圧, 総コレステロール等各検査項目値はt検定を、所見の有無は、 χ^2 検定を行なった。

【結果と考察】

まず、ストレスドック群はストレス度をGHQ60にて評価し、その分布を図1に示す。

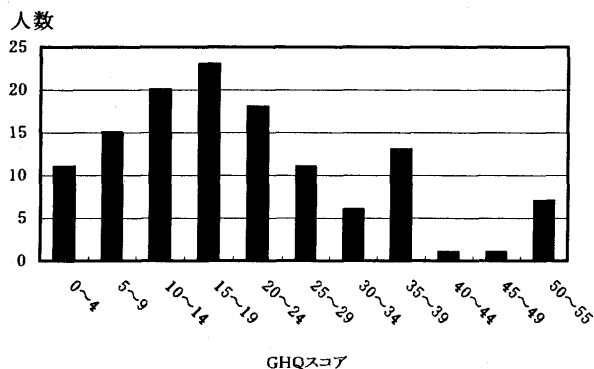


図1. ストレスドック受診者GHQ60の分布

(平均値 20.2、標準偏差 12.8)、ストレスドックを受ける人は、自分がストレスを感じていることを知っている人が多い。当センターでは、

GHQ60のスコアが17以上を高いとしている。スコア分布は、高い得点の分布となっている。両群で各検査項目をt検定で比較した。その結果を表1に示す。

表1 両群の各検査項目比較検定

検査項目	有意水準	検査項目	有意水準
肥満度	0.73	GOT	0.876
血圧最高	0.032 *	GPT	0.125
血圧最低	0.117	γ -GTP	0.006 **
総コレステロール	0.163	負荷後血糖 120分	0.035 *
中性脂肪	0.203	負荷前血糖	0.001 **
HDL-C	0.074	尿酸	0.336

* : <0.05 ** : <0.01

ストレスドック群で、負荷前血糖、負荷後血糖120分、収縮期血圧、 γ -GTPが、有意に高く、また糖代謝の有所見判定の率も有意に高かった。しかし高血圧や肝機能の有所見判定率は、有意差を認めなかった。ボディマスインデックス、飲酒習慣等には、両群間で有意差は認められなかったことより、通常勤務に支障がない入院ドック受診者にもストレスが糖代謝異常の一因となっていることが示唆された。その他胃腸、心疾患などストレス関連疾患とされる項目は、有所見判定の率に今回の研究で差は認められなかった。

受診者にとっては、ストレスと健康の関係を見つめなおす良い機会とストレスの気づきになり、生活習慣改善の行動につながる。ストレスドックの結果が、要医療と判定された方は、専門医への紹介をしておりその中には、ストレスドックが契機となり、脳外科紹介で脳腫瘍を早期に発見した例もある。入院ドック受診者に、心と身体の両面からサポートしていくことはニーズもあり有効と考えられる。